

地域のネットワーク強化で 親子の笑顔を支援

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センターの取り組みを紹介します。

子どもの育ちと子育てを支援

昭和41年に福岡市で立ち上がった子ども劇場は、文化芸術や遊びの体験を通じて、子どもと大人がともに育ちあえる地域をつくるという市民活動に発展し、平成3年には全国で707団体（会員53万7000人）に活動が広がった。現在は、それぞれの地域で任意団体やNPO法人として、ミッションを見直しながら、子育て支援活動、芸術文化活動、社会福祉活動などを展開している。

千葉市にある特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター（理事長：宇野京子氏）は、

昭和63年に任意団体として発足し、平成11年にNPO法人化している。「千葉県内の子ども達の発達権を保障する生活文化環境を創る」ことをミッションに掲げ、子どもたちの育ちや子育てを支援してきた。

主な事業として、子どもたちにプロのパフォーマーによる舞台芸術に触れる機会を提供、文化芸術を体験する遊びのワークショップを行い、乳幼児の非認知能力を育む「はじめてのおしばい」、病院や福祉施設の子どもの対象にした「病気や施設の子どもの笑顔になる贈りもの事業」、学校への芸術家派遣事業などを実施している。

さらに、相談支援として、18歳までの子どもを対象にした常設の電話相談「チャイルドライン千葉」と、養育者の悩みや不安を傾聴する電話相談「ママパラインちば」（毎週金曜）を自主事業として実施している。

0～2歳児を対象にした 子育て支援に取り組む

同法人は、令和2～4年度のWAM助成を活用し、0～2歳児の親子を対象に文化芸術

WAMからひと言

プロの芸術家による体験・参加型プログラムであり、プロの芸術家の力及びそれを感じ取る子どもたちの感性を知らされる事業です。コロナ禍の影響下においても計画通りに事業を実施し、多数の参加者から高い評価を得ている点を評価しています。

今回実施された取組みは0～2歳児の親子支援として効果的であるようにみられますが、今後も事業を実施している各地域において当該取組みへの理解が進み、事業の継続や拡大につながることを期待します。

を活用したワークショップを行い、子どもの成長発達に寄り添う、子育て支援に取り組んでいる。

0～2歳児の親子を支援対象にした経緯について、副理事長の買場都明氏は次のように説明する。

「千葉県における子どもの虐待相談件数は増加傾向にあり、そのうちの9割は実父母による虐待となっています。当法人が開設する電話相談事業でも、子育てでストレスを抱えた保護者が孤立していたり、『子どもが好きな相手が多く寄せられていました。とくに、0～2歳児は親子間の愛着形成が必要な時期であり、虐待の未然防止や親子の笑顔を取り戻してもらいたいと願い、乳幼児の成長発達



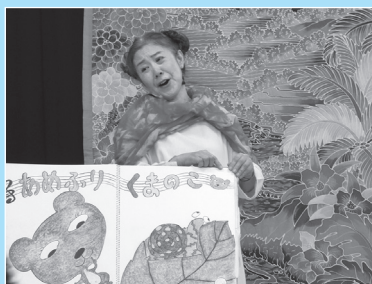
を研究したプロのパフォーマーによる文化芸術プログラムを行うワークショップを通じて、0～2歳児の非認知能力を育みながら、親子の愛着形成や癒しにつなげることを目指しました。

令和2年度事業は、行政と連携しながら0～2歳児親子への文化芸術を活用した遊びに関するワークショップを中心に、令和3年度事業はワークショップに加え、子育て支援者に対する支援力向上を図る講座を開始した。

令和4年度事業は、「0～2歳児と親の笑顔・支援力を豊かに推進するネットワーク強化事業」として、1、2年目の事業を継続・拡大するとともに、活動を継続し推進するためのネットワーク構築を目的に、①0～2歳児と親がふれあってあそぶワーク、②保育関係者対象の支援力向上講座



県内30カ所（17市1町）で開催したワークショップでは、プロパフォーマーによるわらべうた、人形劇、コンサート、ダンス、ふれあい遊びなどの参加型プログラムを行った



舞台鑑賞のあとは、楽器に触れたり、親子が交流しながら体験できる機会をつくった

座、③事業を継続し推進するためのネットワークづくりを実施した。

行政と協働して ワークショップを開催

0～2歳児の親子を対象にしたワークショップは、参加した親子が笑顔で楽しむとともに、成長発達に沿った日常生活に活かせる遊びのスキルを身に付けてもらうことを目的に、プロのパフォーマーによる、わらべうた、

人形劇、ダンス、ふれあい遊びなどの文化芸術を活用したプログラムを実施した。

令和4年度は、県内17市1町の保育所や児童館、子育て支援センター、児童センター、子育て広場などの30カ所で開催し、延べ1014人の親子や施設・行政職員が参加した。

「ワークショップの実施にあたっては、県内54市町村の子育て支援課に事業内容の説明に出向き、希望のあった市町村の子育て支援の実施状況を確認し、ワークショップの内容や開催場所などを決めました。参加者を募る

事業概要

助成額

400万円



WAM 助成
e-ライブラリー

令和4年度事業

特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

0～2歳児と親の笑顔・支援力を豊かに推進するネットワーク強化事業

【事業概要】

0～2歳児とその親を対象に、文化芸術を活用したワークショップを開催し、親子の愛着形成や成長発達に沿った遊びのスキルを身に付けてもらうとともに、子育て支援者を対象にした支援力向上講座、事業を継続して推進するためのネットワークづくりを行う事業



【実施内容】

◆0～2歳児と親がふれあってあそぶワーク

行政と連携しながら、プロパフォーマーによるわらべうた、人形劇、ダンス等の親子がふれあえるワークショップを開催し、親子の愛着形成や遊びのスキルを身につける

◆保育士・子育て支援者対象の支援力向上講座

子育て関連施設のスタッフを対象にした講座を開催し、遊びのスキルや親子との関わり方を学ぶことにより支援の専門性を高める

◆事業を継続し推進するためのネットワークづくり

支援活動を継続するため、行政や保育関連施設、支援者をつなぐネットワークづくりを行う



【成果】

◆0～2歳児の親子を対象にしたワークショップは、千葉県内の17市1町（30カ所）で開催し、延べ1014人が参加した。親子の愛着形成や家庭内での遊びが豊かになるスキルの獲得、親同士の交流が図られることにつながった

◆支援力向上講座は、開催を希望した5市（5カ所）で開催し、約100人の支援関係者が受講した。佐倉市では児童センター5施設が合同開催したり、行政職員が多く参加するなど高い関心が寄せられた

◆事業の継続・推進に向けた取り組みとしては、同法人のコーディネートにより、各市で行政や社会福祉協議会、指定管理者などを中心としたネットワーク会議が発足されることになった

佐倉市と鎌倉市では、市の子育て施策に反映し、財源を確保することにつながり、現在は他市でも予算化に向けた検討が進められている



広報も全面的に協力してもらったことができた」(買場副理事長)。

また、1年目は新型コロナウイルスが感染拡大するなかでの開催となったが、児童館や子育て支援センターなどが閉鎖している状況に対し、行政や施設の支援者は子育てへの影響を危惧しており、子どもの育ちには不可欠だという共通認識のもと実施することができたという。感染対策として、感染防止ガイドラインを作成し、参加人数を限定したほか、スタッフや関係者が2週間分の健康状態(13項目)を記録した健康チェックシートを施設に提出するなど、細心の注意を払いながら実施した。

芸術的プログラムを実施し 乳幼児のもつ力を発見

ワークショップのプログラムでは、舞台鑑賞とともに家庭内での遊びが豊かになるよう、簡単に楽しい遊びのスキルを学びながら、



支援スタッフを対象にした支援力向上講座の様子。プロのパフォーマーの指導により親子との関わり方や遊びの専門性を高めることを学んだ



親子や家族同士が交流を図れる機会をつくった。

「例えば、人形劇では興味をもった子どもが舞台のそばまで寄ってくると、パフォーマーは、子どもとコミュニケーションを図りながら、プログラムを進めていきます。そして、人形劇のあとは人形の作り方や動かし方などを伝える参加型のプログラムとなっています。いずれのプログラムも保護者への癒しとなるようなメッセージが込められています」(買場副理事長)。

さらに、ワークショップには0〜2歳児の親子だけでなく、保育所の保育士や施設の職員も参加することで、日頃の遊びに取り入れ、普段と異なる親子の様子を確認できる機会にもなった。

参加者に実施したアンケート調査では、「次回も参加したい」という回答がほぼ100%で、「楽しかった」、「癒された」、「子どもが笑っていてうれしかった」という声が多く寄せられた。子育て中の親が不安や孤立感から解放されたり、親子間の愛着形成につながったことがうかがえた。

子どもたちの様子として、「興味深く見たり聞いたりしていた」、「マネをしていた」、「普段みられない動きをした」などの反応がみられ、芸術的プログラムが子どもの心を動かし、非認知能力の基礎を育むことにつながったことが推察された。

行政職員からの反響について、理事の滝口淳子氏は次のように語る。

「当初、行政職員のなかには『0〜2歳児が人形劇や歌のコンサートを観ることができるとか』、『このような子育て支援の効果のエビデンスがほしい』、『対象年齢を限定するのは費用対効果に見合わない』などの声がありました。しかし、実際に参加して芸術的プログラムの効果を目の当たりにしてもらうことで、0〜2歳児の子育て支援に有効であることを認識し、活動に共感していただくことにつながりました。3年間のWAM助成で活動に対する理解が進んでいることを実感しています」。

支援スタッフの遊びや 支援力のスキルを高める

支援者を対象とした支援力向上講座は、5市5カ所で開催し、子育て支援者100人と行政職員6人が受講した。

支援力向上講座は、1年目にワークショップを開催した際に、保育所の保育士や施設の支援スタッフから「自分たちもプロのパフォーマーから学びたい」という要望や、研修を受講する機会が少ないという現状があったことを受け、2年目の事業から開始している。

令和4年度は、行政から所管する保育所や子育て支援施設に呼びかけてもらい、受講の申し込みがあった保育所、幼稚園、親子のつどいの広場、子育て支援センター、児童センターで実施した。

「人形劇のプロのパフォーマーを講師にし



事業を継続し推進するためのネットワークづくりでは、同法人がコーディネーター役を担い、行政とともに市内の支援施設、支援者をつなぎ、それぞれの市にあった仕組みやネットワークを構築することを働きかけ、2市（佐倉市、市原市）においてネットワーク会議の立ち上げにつながった。

地域の子育て施策として 事業が継続される

た講座では、人形の作り方を教えたり、グループ内で受講者が互いに演じてみて、どのようにして子どもたちとコミュニケーションを図るのかを学びました。子どもたちに伝わりやすい話しかけ方や表情、目線の高さなどをアドバイスすることにより、遊びの専門性とともに、親子との関わり方など支援力を高めることにもつながる内容となっています」（滝口理事）。



左上から事務局長の笠原直子氏、理事の滝口淳子氏、左下から副理事長の買場都明氏、理事の中村雪江氏

データを示し、行政と協働



特定非営利活動法人
子ども劇場千葉県センター
副理事長 買場 都明氏

WAM 助成では、行政と連携してワークショップや支援力向上講座、ネットワークづくりを行いました。行政と協働する際には、アンケート調査結果をもとに大学教授に分析をしてもら

ったデータを示し、芸術的プログラムが子育て支援として有効であることの根拠や裏づけを共有しました。

行政としては民間団体と協働したり、予算化を考えるうえで根拠となるデータがなければ動けないところがあります。3年間の事業でデータを蓄積し、市民の声として届けたことにより、行政との連携が図れたところが大きいと思います。

◆団体概要

〒260-0031
千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102
TEL : 043-301-7262
FAX : 043-301-7263
URL : <https://chiba.gekijou.org/>
設立 : 平成 11 年 5 月
理事長 : 宇野 京子

さらに、佐倉市では立ち上げたネットワーク会議で市と児童センターの指定管理者が事業の成果を共有し、指定管理者の財源から予算を確保したほか、鎌ヶ谷市では本事業を市の子育て施策に反映して予算を確保したこと、次年度以降もワークショップと講座を継続して実施することが決まった。その他の市においても予算化に向けた検討が進められているという。

助成事業の成果として、芸術的プログラムが子育て支援として有効であることの理解を広げることができた。

「0～2 歳児の親子を対象にした芸術的プログラムが、親子間の愛着形成や虐待防止、子どもの非認知能力を育むなど、子育て支援として有効であることを保護者や支援者はもちろん、行政職員にも理解してもらえたことは大きな成果となりました。今後、さらに支

援活動を広げていくため、県内 54 市町村の子育て支援課等を訪問し、助成事業の成果報告を行い、3 年間のアンケート調査から分析したデータやネットワークモデルを示しながら、子育て施策に反映されることを働きかけていきます」（買場副理事長）。



社会福祉振興助成事業に
関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）

TEL : 03-3438-4756 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）

TEL : 03-3438-9942 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 等の民間福祉活動への
応援よろしくお願いします！

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先 : 03-3438-0211 (総務部総務課)

